

領 収 書

No. 44-3

岡村 恵子 様

¥14,000

但し、自治体学校 参加費として

2016年6月13日

上記、正に領収しました。

【自治体学校受付事務局】

(株)国際ツーリストビューロー

〒650-0011

神戸市中央区下山手通6-1-4 オフィス下山手5階

TEL 078-351-2110

領 収 書

No. 44-3

岡村 恵子 様

¥7,000

但し、自治体学校 現地分科会費用とし【自治体学校受付事務局】

2016年6月13日

上記、正に領収しました。

(株)国際ツーリストビューロー

〒650-0011

神戸市中央区下山手通6-1-4 オフィス下山手5階

TEL 078-351-2110

研修 岡村 恵子 議員

日時：平成28年7月30日(土)～8月1日(月)

場所：神戸芸術センター芸術劇場・現地分科会集合場所(三宮駅：神戸市役所花時計前)

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～小山駅～東京駅～新神戸駅	鉄道	往復	1,393.4	20,300				20,300
東京駅～新神戸駅	鉄道	往復			11,180			11,180
新神戸駅～三宮駅	鉄道	往復	2.6	420				420
								0
計				20,720	11,180	0	0	31,900

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	31,900 円
(うち航空運賃)	0 円)
計	64,900 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 廣澤 良英





参加費

●3日間通し参加の場合

自治体問題研究所個人会員 **14,000円**
一般 **16,000円**

●部分参加の場合(自治体問題研究所会員、一般とも同額)

7月30日 **6,000円** 現地分科会(21、22、23)
7月31日 **7,000円** は参加費のほか、別途追
8月1日 **4,000円** 加費用が必要です。

参加費の割引

●**新規入会者割引** 3日間通し参加、または部分参加で2日以上参加される一般の方で、自治体学校を機に自治体問題研究所に新規入会される方には、自治体学校当日受付で4,000円をキャッシュバックいたします。

●**地元割引** 現地実行委員会をつくってご協力いただいている地元・兵庫県では、住民や町議会議員の皆様を対象に、地元割引がございます(県・市議会議員、自治体職員は除く)。詳細は、現地実行委員会にお問い合わせください。

現地実行委員会:兵庫県自治体問題研究所

TEL 078-331-8911 FAX 078-599-5531

E-mail: hyogojitiken@sunny.ocn.ne.jp

※2日目の昼食について

7月31日(日)の会場(神戸市外国語大学)周辺は飲食店が少ないので、お弁当のご注文をお勧めいたします。▶申込書の欄に○をつけてお申し込みください。

第58回自治体学校実行委員会

事務局 〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4階 自治体問題研究所内

TEL 03-3235-5941 FAX 03-3235-5933 E-mail: info@jichiken.jp

共催団体:自治体問題研究所/北海道地域自治体問題研究所/オホーツク地域自治体問題研究所/青森県地域自治体問題研究所/岩手地域総合研究所/福島自治体問題研究所/茨城県自治体問題研究所/とちぎ地域自治体問題研究所/ぐんま住民と自治体問題研究所/埼玉自治体問題研究所/千葉県自治体問題研究所/東京自治体問題研究所/多摩住民自治体問題研究所/神奈川自治体問題研究所/いしがた自治体問題研究所/富山県自治体問題研究所/いしかわ自治体問題研究所/山梨地方自治体問題研究所/長野県住民と自治体問題研究所/静岡県地方自治体問題研究所/東海自治体問題研究所/滋賀自治体問題研究所/京都自治体問題研究所/大阪自治体問題研究所/兵庫県自治体問題研究所/奈良自治体問題研究所/和歌山県地域自治体問題研究所/しまね地域自治体問題研究所/岡山県自治体問題研究所/広島自治体問題研究所/徳島自治体問題研究所/香川県自治体問題研究所/愛媛県自治体問題研究所/高知自治体問題研究所/福岡県自治体問題研究所/長崎県地域自治体問題研究所/くまもと地域自治体問題研究所/みやざき住民と自治体問題研究所

●会場へのアクセス●

7月30日・8月1日●

神戸芸術センター芸術劇場

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通7-1-13

TEL 078-241-7477

JR山陽新幹線、神戸市営地下鉄西神・山手線「新神戸」駅から生田川方面へ200メートル(徒歩約5分)

地下鉄三宮駅から新神戸駅までは所要2分、210円。各種交通系ICカード利用可。

7月31日●

神戸市外国語大学(学舎・第2学舎内の各教室)

〒651-2187 神戸市西区学園東町9-1

TEL 078-794-8121 (代)

神戸市営地下鉄西神・山手線「学園都市」駅から徒歩5分

地下鉄三宮駅から学園都市駅までは所要23分、340円。各種交通系ICカード利用可。新長田駅(JR)、板宿駅(山陽電車)からも地下鉄へお乗り換えいただけます。

SCHEDULE スケジュール

●7月30日(土)全体会

12:00~開場・受付
12:30~12:50 歓迎行事
13:00~13:10 開校あいさつ/地元歓迎あいさつ
13:10~14:30 記念講演(加茂利男氏)
14:30~14:50 休憩
14:50~16:50 パネルディスカッション
16:50~17:00 次回開催地あいさつ・事務連絡・全体会終了

●7月31日(日)分科会・講座

9:30~ 16:00 分科会・講座
16:30~18:00 ナイター企画
17:00~19:00 ひょうごの地酒を楽しむ交流会

●8月1日(月)全体会

9:30~11:00 特別講演(西堀喜久夫氏)
11:00~11:15 休憩
11:15~11:30 参加者感想
11:30~11:45 閉校あいさつ



神戸の写真提供: ©一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会

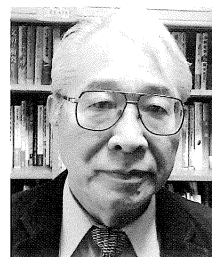
第58回 自治体学校 in 神戸

みんなが先生 みんなが生徒

2016年7月30日(土)▶8月1日(月)

神戸芸術センター芸術劇場・神戸市外国語大学

1日目●全体会 7月30日(土)12:30~17:00



記念講演

日本型人口減少社会と地域の再生 —不安と混迷の時代をどう生きるか

加茂利男 (大阪市立大学名誉教授・自治体問題研究所前理事長)

21世紀の世界と日本は、不安と混迷の色を濃くしています。私たちはこの時代をどう生き、将来の世代にどんな社会を残すことを考えたらいいのでしょうか。講演では日本型人口減少社会と地域の再生の問題を糸口に、このことを考えたいと思います。

主催●第58回自治体学校実行委員会

後援●兵庫県/兵庫県議会/神戸市/明石市/西宮市/洲本市/芦屋市/相生市/豊岡市/加古川市/赤穂市/西脇市/宝塚市/三木市/高砂市/三田市/加西市/篠山市/養父市/南あわじ市/朝来市/淡路市/宍粟市/加東市/たつの市/猪名川町/多可町/稲美町/播磨町/市川町/福崎町/太子町/佐用町/香美町/新温泉町/兵庫県市長会/兵庫県市議会議長会/兵庫県町村会/兵庫県町議会議長会/神戸新聞社/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/時事通信社神戸総局/共同通信社神戸支局/サンテレビジョン 【2016年4月20日現在】

2016年自治体学校（神戸教室）——参加報告

岡村けい子

7月30日（1日目）

記念講演

日本型人口減少社会と「地域の再生」——不安と混迷の時代をどう生きるか

講師 加茂 利男氏

人口減少社会の地域間競争——「地域創生」の問題点

OECDは、国際共同研究の結果として、まず、出生率の回復には、子どもを持つ家庭への税控除、児童手当、育児休業、保育所の増設などの家族政策を国全体で行う事が必要であり、こういう政策は相当な効果をもたらすという見方を打ち出している。

これに対して日本の「地方創生」政策は、個々の自治体に地方版総合戦略を作らせ、それを実現する戦略を考えさせるこれが基本になっている。これでは、足の引っ張り合いになるだけではないか。国は 一方で選択的・集中的に公共投資をつぎ込む。外れた自治体は、人口が減って自治体が維持できないように追い込む。この先は、維持できなくなった自治体の廃止である。

合併の時期と人口減少時代の始まりが重なったことが、日本を人口減少社会に導いた決定的な政策ミスだったのではないか。人口が減っているからと言って、市町村合併や道州制を採用するということになると、ますます地域に自治体はなくなり、人を定住させる公共空間は減り、人口減少は進む。ここに「地方再生」のジレンマがあるのではないか。

パネルディスカッション

辺野古への新吉建設をめぐって争う国と沖縄県

——憲法・地方自治から見ると、何が見えてくるのか

「辺野古への新基地建設をめぐって争う国と沖縄県」南山大学 榊原秀訓氏

パネラー

- ①伊芸佑得（うるま市島ぐるみ会議）
- ②上里清美（沖縄県新日本婦人の会）
- ③島袋良太（琉球新聞編集局政治部（基地問題担当）記者）

7月31日（2日目）

現地分科会

参考	淡路の自治体	
	淡路市	46,922人 19,848世帯
	洲本市	47,039人 20,050世帯
	南淡路市	50,344人 18,951世帯

学習テーマ

——淡路島の農業と人形浄瑠璃、野島断層を見る——

日程

午前

● 淡路の農業——淡路島の玉ねぎについて

J Aあわじ島代表理事組合長 森 絃一さん

- 1、淡路の農業にとって玉ねぎはどれほど大事か。
- 2、玉ねぎの生産がどのように始まり、大切にされてきたか。
- 3、産地偽装などの不届きなものとどう闘い、ブランド力を育ててきたか。
輸入玉ねぎの影響による病虫害の問題も。

ベト病の発生と防除

- 4、この玉ねぎや淡路の農業がいまどのように厳しい状況にあるか。
- 5、状況を跳ね返していくために、農協は何を努力しているか。
- 6、農家、農協の努力に政治が果たす役割は何か。

午後

● 淡路人形浄瑠璃

淡路島では江戸時代から多くの人形座があり、島内外で興行をしていた。語り、三味線、人形の三つが相まって、喜怒哀楽の人間模様を演じるもの。海外公演も活発に行い、小・中・高校生などを対象に伝統芸能の継承に取り組んでいる。

当日演じてくれた方々は、比較的若い方々で、手を動かすだけでも何年、足を動かすのに何年、頭・顔の表情を出すのに何年との説明があった。

● 野島断層

阪神淡路大震災で、M7. 3・内陸直下型の兵庫県南部地震の震源となった断層。

北淡震災記念公園見学

野島断層記念館（断層保存ゾーン、メモリアルハウス、震災体験館等見学）

3日目

特別講演

自然災害からの復興と地域連携——防災政策から事前復興政策へ——

講師 西堀 喜久夫

（愛知大学地域政策学部教授）

人間は自立していないと、「助けてほしい」「助けを求めること」もできない。

自治体の自律性を高める授受力を磨くことが必要。

自立している自治体とは、自然災害がおこることを想定して、どこにも頼らず、オールマイティの自治体をつくるという事ではなく、自らできることと支援を受ける事を明確にしていることである。そして、その内容を行政、市民が具体的に認識していることである。災害時にどのような支援を必要としているかが市民、家族、コミュニティ、企業、団体レベルで明らかになっており、それを自治体行政が集約し、どのような支援がいつようであるかを、が明瞭になっている自治体が授受力を持って

いる、つまり自律性の高い自治力のある自治体といえる。